

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	クールダウン、関係機関との連携
【学校、学年】	小学校 【 1 】年
【状況、様子 等】	<p>○児童Cの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の読み書きはできるが、「書く活動」に著しい抵抗を示した。 ・したくないことがあると、イライラし始め、机や床や壁等を叩き、教室から出ていくことがあった。 ・初めての学習活動(特に体育の単元初日)に抵抗を示した。 ・自分の気持ちや状況を言葉で伝えることが苦手であった。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンのスペースを設け、教室内で気持ちを調整できるようにした。(合理的配慮) ・勝手に離席するのではなく、「かきたくない」「したくない」「ふあん」「わからない」等の理由が書かれたミニカードの中から選び、担任に伝えることができるようにした。また、本児の気持ちを聞き取る際は、【Yes/No】の選択肢を示しながら会話をし、本児が○をつけて意思表示できるようにした。選択肢の中には、「わからない」や「その他」も入れ、その回答も認めるようにした。(合理的配慮) ・体育で新しい単元に入る際は、見通しと期待感がもてるよう、家庭と連携しながら、活動内容の説明を事前に行い、必要に応じて練習を行った。(合理的配慮) ・保護者との面談を実施し、巡回相談員より授業での気づきを伝えるとともに、関係機関との連携のよさについて説明した。(保護者へのアプローチ) ・放課後等デイサービス利用後は、相談支援専門員と連携して定期的に担当者会議を行い、学校、家庭、放課後等デイサービスでの取組を共有し、できるようになってきたことや課題について整理しながら、本児の将来の姿を見据えた必要な力を育てていくための話し合いを行った。(関係機関との連携)
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンのスペースを設けたことで、教室内で安心して授業に参加できるようになった。 ・言葉で伝えることが苦手なため、カードや【Yes/No】の選択肢等は有効であった。付箋紙に自分の気持ちや理由を書いて担任に伝える姿も見られるようになった。 ・保護者の理解を得て、放課後等デイサービスの利用につながった。 ・定期的な担当者会議で、本児のよさやがんばりを共有しながら話し合うことで、本児へのかかわり方が肯定的になり、本児の姿も変容した。